

事業所活動紹介

各事業所の取り組みについて
紹介いたします。

地域に開かれた事業所を目指して ～にじいろ・心音まつり～

デイサポートにじいろ

9月13日(土)デイサポートにじいろ、向陽園地域生活支援センター心音・居宅介護事業所心音の合同企画として「にじいろ・心音まつり」を開催いたしました。当日は雨模様となりましたが、足元の悪い中、本当に多くの方々にご来場頂きました。今年は一日を通して開催し、地域の皆様、ボランティアとして、近所の方、元気いっぱいの中学生、縁日一日店長、販売では、たんぼぼ工房や若宮病院が運営



するパン工房リアンわかみやなどにも参加して頂きました。そしていつも温かく見守って下さるご家族をはじめ、本当に多くの方々にお越し頂き、会場は笑顔と活気にあふれていました。このお祭りを通して、普段はなかなか接する機会のない地域の皆様にも、利用者の素敵な一面や事業所の雰囲気を身近に感じて頂けたと思います。にじいろの利用者たちは、この日を楽しみに会場の創作活動や、来場者プレゼントのプラ板作成をし、準備を重ねてきました。利用者の中には、色とりどりの浴衣や甚平に着替え、髪型もばっちり整えて参加し、オシャレをした利用者がより一層、会場を華やかに彩って下さいました。このお祭りの成功は、皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝しております。誠にありがとうございました。これからも地域に開かれた事業所として、皆様との繋がりを大切にしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
[デイサポートにじいろ 支援員 新宮 果鈴]

『地域でのつながりを大切に』

デイサポートちとせんぼ

当事業所では、活動の一つとして花植えを行い千歳コミュニティセンターと済生病院に置かせて頂き、曜日を決めて、水かけや花の手入れを利用者と一緒に行っています。利用者と一緒に花を見ながら交換時期を確認したり、地域の方よりアドバイスを頂く事もあります。千歳コミュニティセンターでは、利用者が作った箸置き・アクリルたわしを定期的に搬入し、「数が少なくなった」と好評をお聞きすると、利用者も更にやる気が出るようです。利用者の方と搬入を行う際、職員の方に挨拶する事を楽しみにされている様子で積極的に搬入を行っています。

その他、近所の方の畑をお借りし、畑の先生として色々教えて頂きながら、種まきや水かけ、収穫などの体験を行う事ができました。収穫した野菜はセルフクッキングや、事業所のお祭りでの販売も行いました。7月からは週に1度、「百歳体操」に参加し、地域の方と一緒に体を動かしたり、体操後はなかやま虹の丘のプチバックと一緒に作成しています。型紙を

作ってきて、「こうするといよいよ」など地域の方から声をかけて頂く場面もあり、新たな交流の場になっています。

様々な活動や取り組みを行う中で、長町・千歳地区に根差した事業所を目指し、地域の方と様々な交流の場を持ち過ぎて頂けるよう今後も取り組みを行っていきます。

[デイサポートちとせんぼ 支援員 齋藤 由美子]



愛泉会 セミナー

1人ひとりが学び成長できる職場となるよう、今年も法人内・事業所内の研修に力をいれています。

9月18日から2日間、第36回全国グループホーム等研修会東北地区大会inやまがた「自分らしい生活を築くために～グループホームの可能性・未来に向けて～」をテーマに、山形テルサにて、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地より400名を超える参加を得て開催されました。

オープニングセレモニーでは山形大学サークル「四面楚歌」による力強く華麗な花笠踊りでスタートし、会場も大いに盛り上がりしました。

行政説明では、厚生労働省障害福祉課地域生活・発達障害者支援室室長補佐馬場和弘氏より、「地域生活支援に係る国の施策の動向」と題して、障害福祉サービスの現状や令和6年度障害福祉サービス等報酬改定における主な改定内容、そして、障がい者が希望する地域生活の実現のための支援等についてご説明いただきました。続く基調講演は、社会福祉法人高水福祉会理事長野口直樹氏より、「自分らしい生活を送ってもらうために～私たちの支援のあり方を見つめ直す～」と題して、支援のトライアングル「リカバリー」「エンパワメント」「ICF」というキーワードを中心に、自分が自分として生きていくことや生き方の回復の大切さについてお話いただきました。自分自身の支援を振り返り見つめ直すことができた貴重な時間となりました。



シンポジウムでは、「障がい者一人ひとりの“生きたい暮らし”を地域で叶える」をテーマに、特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク理事長水原源彦氏、障害のある人と援助者でつくる日本

グループホーム学会代表荒井隆一氏、特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会代表理事富岡貴生氏をシンポジストに、アドバイザーに馬場和弘氏、地域支援部会会長石本伸也氏の進行で、それぞれの視点から捉えた「一人ひとりの生きたい暮らし」について討議が行われました。地域で暮らす障がいのある人たちに自分らしい生活を築いてもらうために、多職種が連携して支えていくことの大切さを改めて学ぶことができました。

2日目は、全国各地から講師や実践報告者等登壇者をお招きして、4つの分科会が行われました。第1分科会では「重度障がい者の地域生活について～障がいが高くても“いつまでもここで住みたい”を叶えるために～」、第2分科会では「地域支援における災害への備えと事業継続」、第3分科会では「その街に暮らすということ～地域住民との交流や連携を築くために～」、第4分科会では「利用者の豊かな生活を支える地域サービスの連携とは」をテーマに、それぞれ充実した内容の分科会となりました。

2日間を通して、私たち支援者に求められていることや果たすべき課題について、原点に立ち返りながら、地域支援のこれからの未来に向けて参加者同士が「共に考え」「共に学ぶ」ことができたと感じています。また、研修会を通して多くの仲間と出会うことができ、つながっていることで感じられる心強さは、今、私の宝物です。

[グループホーム支援センター心音 所長 武田 幹]

「全国グループホーム等研修会東北地区大会inやまがた」報告

